

桜を育てる会

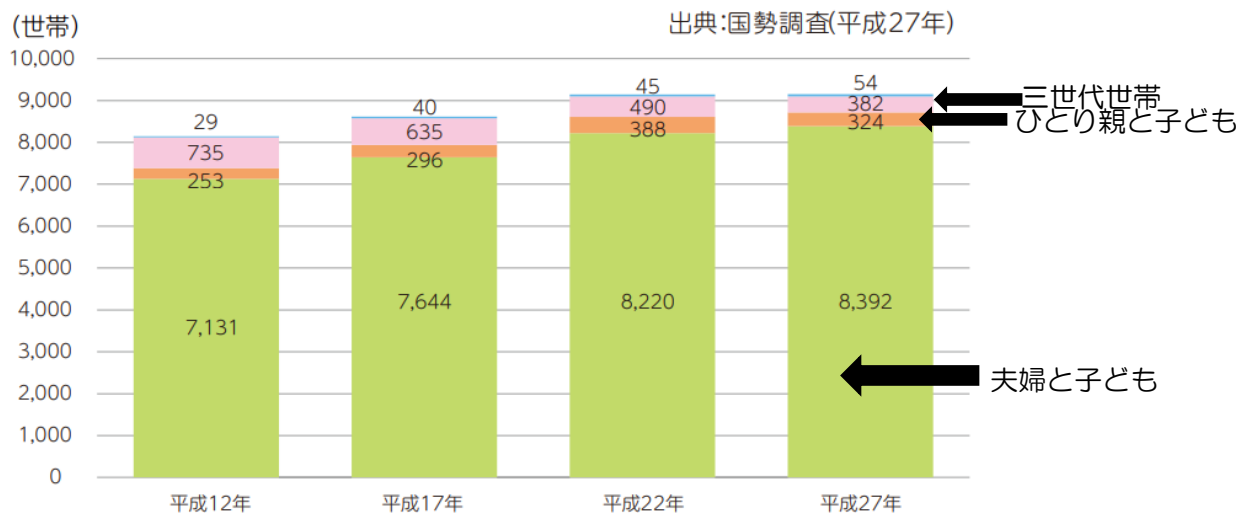
1.はじめに

「桜を育てる会」はこの第21期に発足し、子育てと高齢者福祉について関心の深いメンバーが神奈川区の現状を調査して学びながら、「子どもからお年寄りまで生き生きと暮らせるまちづくりをめざす」をテーマに活動を行いました。そのきっかけとなったのは以下のようなことです。

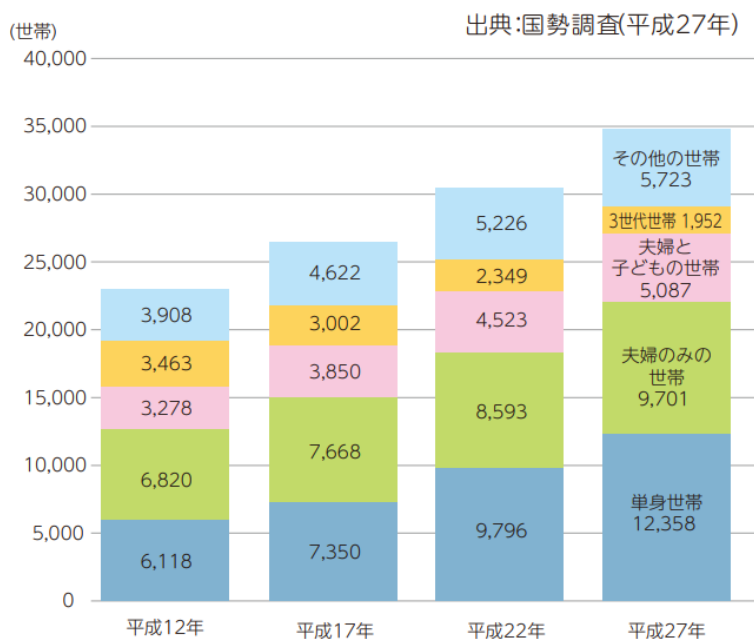
(1) 神奈川区の特徴

神奈川区ってどんな町 かながわ支え愛プラン第4期地域福祉計画より

【4-1】未就学児(5歳以下)の子どもがいる世帯の家族類型



【4-2】高齢者のいる世帯の家族類型



未就学児（5才以下）の子どもがいる世帯では夫婦と子どもだけの世帯が9割

高齢者のいる世帯では単身世帯の増加が著しく、夫婦のみの世帯も2番目に多い

神奈川区	{ 人口が緩やかに増えている ひとり暮らしの人が多く核家族化が進んでいる 見守りや声かけの重要性が増している }
------	---

その背景：子育て世代は「夫婦と子どものみの世帯」が9割
 高齢者世代は「ひとり暮らし」と「夫婦のみ世帯」の増加

(2) 神奈川区で行われている支援の例

子育て支援：赤ちゃん学級・赤ちゃん訪問・すくすくかめっ子・かな一ちえなど
 高齢者支援：地域ケアプラザ・サロン・カフェ・食事会など

これからめざすものは世代間交流の広がり

現在も区内各地で世代を越えて住民が参加する各種行事（お祭り・餅つき・運動会・防災訓練など）があります。しかし、これらはそれぞれが年に1回程度の開催で準備の期間と人手を要します。これからめざすものは、かながわ支え愛プラン「誰もがひとりぼっちにならない」まちづくりに沿って、誰もが日常的に参加できる多世代交流の場があちこちに生まれることではないでしょうか。そこで「桜を育てる会」の今期の活動を区内のこのような活動状況の調査と見学とし、多世代交流が日常的に行われている場を見学しレポートすることとしました。

2. 「多世代交流の場の見学」報告

(1) 白幡上町「丘の上カフェ」 訪問日 2023年4月20日（木）

地域の誰もが気楽に集える場所として、2回のプレオープンの後、2022年6月に正式にオープン。毎回30人~40人、乳幼児から90代の高齢者までの幅広い年齢層が参加。自治会員有志13人（30代~70代）が運営に携わっている。

毎月第3木曜日10~12時（出入り自由） 白幡上町自治会館

利用料金は100円（コーヒーとお菓子、こどもには無料の麦茶）

2023年4月20日の様子

☆スタッフは9時頃から準備。

この日はお揃いのエプロン（若いスタッフがデザイン）が出来上がり、初めて着用して活動開始。



☆会場の準備、食器、コーヒーとお菓子の準備など。

会館前道路に案内ののぼり



広場側入口の看板

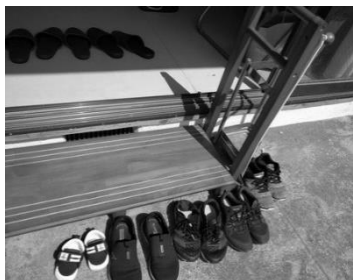


テーブルには花が



いつもスタッフが持ち寄った季節の花が飾られている→

☆オープン後、しばらくして1組の親子が来場。絵本やおもちゃで遊んだり、丸椅子を押して歩いたり。幅広い年齢層の方が参加し易いように、乳幼児用のおもちゃを用意したり、段差がある上がり口に手すり付き踏み台を設置。



←<赤ちゃんの小さな靴と人生の大先輩の靴が>
手すり付き踏み台には靴べらが掛けられ、
脇に杖を立てられるスペースを確保。

☆当日は4月の自治会会報でお知らせした電子掲示板「防災トーク」の案内と、インストール希望者にはそのサポートも行われた。

案内とサポートの様子



色々な世代の方が参加



犬の散歩中ちょっと寄ってベンチでコーヒー

当日の参加者は38人（スタッフ10人・こども2人を含む）、ケアプラザから1人、他町から2人の参加がありました。皆さん三々五々やって来て、空いているスペースに座りコーヒーを飲みながら会話を楽しんでいる様子。初めて参加した方も自然にその輪に加わっているいつもの風景でした。晴天に恵まれ、この日も多くの方が和やかに歓談の時を過

ごしていたようです。

(2) 六角橋支え愛プラン～おたがいさまでつなげる、六角橋～

第3回「みちあそび」

訪問日 2023年6月3日(土)

「みちあそび」は「みち」を開放して子どもから大人まで誰でも参加できる多世代交流の場として2021年秋、六角橋西町で第1回が実施。その後六角橋自治連合会と六角橋地区社会福祉協議会の主催で六角橋各町が持ち回りで実施。今回第3回の担当は六角橋東町。六角橋ファミリー通り商店街で開催。



☆道路使用許可をとり開催時間帯は通行止めになっている。

ファミリー商店街入り口・道路の会場部分では消防団員が案内、「みちあそび」ののぼりが上がっていた。



☆会場入り口に受付



受付では参加者に記名してもらい、防災などの資料を渡す。

子どもには会場でも遊べるおもちゃなどの入った袋をプレゼント。(約300個用意したが開始から1時間弱で200個ははけたとのこと)

☆遊びの内容

水ふうせん釣り・スーパー金魚すくい



大人気で長い行列が



<チョークお絵かき> 小学生も幼児も親子一緒に楽しそう。どんどん絵が増えていく。



<けん玉・ベーゴマ>



教える大人(主に高齢者)も生き生きとしている。

<シャボン玉・輪なげ・なわとび・皿まわし>



←シャボン玉・輪なげは
幼児に人気。

なわとび・皿まわしは少し→
大きなお子さんがトライ。



☆会場では防災に関する催しも



消防団の方が紙芝居で地震・風水害・火事の場合の対応を
ちいさな子どもに分かり易く説明していた。
チョークお絵かきの絵は、催しの終了後消火栓からの放水
訓練も兼ねてきれいにしよう。

直前まで降っていた雨が上がり晴れ間も見え、大勢の子どもや親子連れが色々な遊びを楽しんでいました。六角橋みちあそびは道路使用許可をとるなど準備も大変だったと思います。近くの公園の片隅や私道などで小規模で時々このような試みができれば、家々の軒先や路地などにどこからとなく子どもが集まり賑やかだったかつての遊びの場のように、見守る大人も交じって世代を越えた交流の場になると感じました。

(3) 地域の居場所「てんこもりのわ」 訪問日 2024年3月5日(火)

～こどもも大人も、おばあちゃんも、おじいちゃんも、

みんなで わいわい てんこもり わらって 楽しく 過ごしましょ～

松見町の地区50年の戸建てを拠点に高齢者や子育て世帯の居場所、誰でも自由に出入りでき安心してくつろげる多世代交流の場として7年前に発足し、子どもの見守りや高齢者の手芸や折り紙、お茶飲みの場として活動。幅広い事業の展開を見据える中、活動拠点の改修のため「ヨコハマ市民まち普請事業」のコンテストに応募し、1年前助成対象事業に選ばれた。昨年秋から助成金を活用して「みんなの実家」をコンセプトに食事の提供のためキッチンの改修や玄関のバリアフリー化などの整備を行い、2月23日にリニューアルオープン。10人のスタッフとボランティアで運営。

「ライラック」

毎週火曜日・木曜日 9:00～17:00 オープン 参加費100円

木曜日はランチを提供(要予約) 大人600円 子ども300円

(令和6年度 利用料金の変更予定あり)

リニューアルオープンして間もない3月5日、午後1時半過ぎに訪問、その際の様子。

☆小雨の降る寒い日だったがバリアフリーの玄関はガラス戸で中の様子がよく見えて、入りやすい雰囲気。道路から2階の「ライラック」の文字がはっきり見えるので近くに行けばすぐ分かる。



入口 外から中の様子がよく見える



入った所は広い土間

雨の日もここで遊べる

数々の遊具はみな寄付とのこと

☆1 階のオープンスペース

この日は午前中折り紙教室。お邪魔した午後は仲良しの高齢者が集まり編み物を。遊んでいた2階から下りてきた小さいお子さんがスタッフに声をかけられたりして和やかな雰囲気。



折り紙教室の作品 折り紙 5 枚使用



テーブルの奥カウンターの先にはキッチン

<スタッフのみなさん>



ピアノの上には折り紙作品のお雛様
季節が感じられるほっこりする空間

<こんなスペースも>

授乳やおむつ換え



外遊び後のシャワー

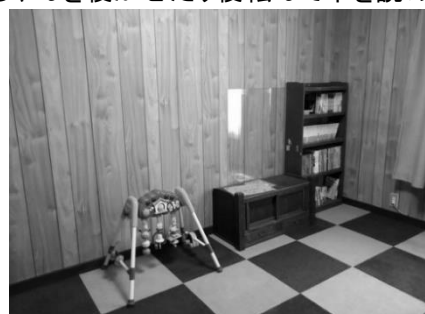


☆2 階にも子どもが遊べるスペースが

大きな遊具がある量の部屋



赤ちゃんを寝かせたり寝転んで本を読めたり



リニューアルオープンして間もない時期の訪問でしたが、これまでの実績に基づいた生活者の目線からの様々な工夫がされていました。幅広い世代が交流でき、実家にいるような安心感のある居心地の良い場所と実感しました。高齢者や子育て世代、放課後の子どもの居場所のみならず、すでに始まったランチの提供の他、今後さらに多様な取り組みを考えているそうです。各種補助金を活用しても厳しい運営を人の繋がりや支え合いで乗り越えているの

だと感じました。誰もが「ひとりぼっちにならない」まちづくりのために、このような場所があちこちにできるような施策と支援が必要と強く思いました。

3. おわりに

上記の「てんこもりのわ」が数年間の活動の後に建物をリニューアルして事業の展開を広げたように、他の活動も、発足当時や見学レポートした時点とは多少状況が変わっています。

・白幡上町「丘の上カフェ」

当初からの参加者、特に高齢者は外出困難や入所等で参加出来なくなり、新たな参加の呼びかけもしている。子育て世代向けには、前の広場での「幼児の外遊びを見守りながら楽しむコーヒー」をコンセプトに参加呼びかけをできないか模索中。

・六角橋「みちあそび」

道路を開放するみちあそびは大勢が楽しめるが道路使用許可をとるのが難しく準備が大変なので、身近にある許可をとり易い公園や広場などで遊べるような企画を検討中。

第21期から発足した「桜を育てる会」ですが、メンバーの居住する地域に限られる等情報の収集が困難であったことは否めません。ただ「子育てと高齢者福祉」を考える中で、神奈川区が掲げる「子どもからお年寄りまで生き生きと暮らせるまち、誰もがひとりぼっちにならないまち」であるためには、地域のあちこちに日常的に多世代が交流できる場があることが不可欠と考え、今期の活動の主体をその紹介としたので、当初の目標はある程度達せられたのではないかと考えています。この報告が多世代交流の場の情報として伝わり、地域活動の幅が広がる一助になればと思います。参加者も活動を支える人も生き生きと過ごせるこのような場が身近な地域にあり、その活動が継続できるような神奈川区の施策と行政の支援を強く願います。